五五五八　［中外］物なる者は中を得て立つ、
　　外を得て居る　是を以て
五五五九　機は止を中に得ざれば、則ち動く可からず、
五五六〇　體は居を外に得ざれば、則ち實す可からず、
五五六一　天地は物を同じくせず、故に　各　其の位に立つ、
五五六二　象質は動を同じくせず、故に　各　其の方に行く、　是を以て
五五六三　位は靜を以て立つ、
五五六四　方は動を以て見る、
五五六五　中は坱然の外を貫く、　實する有りて氣を給す、
五*五六六　外は眇焉の點を藏す、　剛を以て物を保す、
五五六七　物は則ち之を給するの氣に資る、
五五六八　氣は則ち之を保するの氣を養す、
五*五六九　資給養保は。此の間に居る、
五五七〇　　此の間に行く、　故に物立は中外に由る、
五五七一−七二　　事行は向背を爲す、　故に
五五七三　氣象なる者は、時の物、動きて其の居を常にせず、　是を以て方を有す、
五五七四　氣質なる者は、處の物、止りて其の居を變えず、　是を以て位を有す、　故に
五五七五　行く者は氣なり、路は乃ち其の方、隱然たりと雖も、而も行く者は由らざるを得ず、
五五七六−七二　居る者は物なり、宅は乃ち其の位、邃然たりと雖も、而も居る者は立たざるを得ず、　此の故に
五五七八−七八　　(PB 391)

五五八〇　機なる者は見氣、動止の麁跡は都べて動に入る、
五五八一　體なる者は露物、虚實の麁體は同じく靜を爲す、　是を以て
五五八二　方位は。處を物に於て定め。事を物に於て立つ。
五五八三　物は外を得て居り、　中を得て立つ、
五五八四　氣は外を得て行き　中を得て止る、
五五八五　居る者は移る、
五五八六　行く者は復す、
五五八七　止りて定まる、
五五八八　立ちて靜なり、　夫れ
五五八九　處は物を容る、
五五九〇　物は處に居る、
五五九一　處は方位を容る、
五五九二　物は方位を成す、　而して
五五九三　物に大小有り。小處は小方位を成す。
五五九四　素にして塊なり、
五五九五−九六　文にして歧なり、　物形の態然り。
五五九七　塞體なる者は、　正圓正直なり、
五五九八　質は内に在り、
五五九九　氣は外に在り、

(I 440a)

五六〇〇　下は内に合す、
五六〇一　上は外に合す、
五六〇二　通體なる者は、斜圓斜直なり、
五六〇三　南北は相い背く、
五六〇四　東西は相い面す、
五六〇五　日影の照蔽する所と、
五六〇六　兩極の隱見する所は、
五六〇七−〇八　必ず地の半を分つ。人は地の半に倚りて。以て輿地を平望す。
五六〇九　日の出入に従いて、而して東西成る、
五六一〇　極の隱見に由りて、而して南北分る、
五六一一　繩は上下を生ず、
五六一二　身は中邊を定む、
五六一三　規矩を衡従して。東西南北を定む。是れ人の地面の條理に従いて。而して
五六一四　方位を定むる者なり。人は又た其の形に就きて方位を分つ。則ち
五六一五　前後左右。本末内外。以て紀す。此を以て彼に比す。
五六一六　天に合する所の上下内外は、我に於て本末内外を分つ、
五六一七　地に有する所の東西南北は、我に於て前後左右を爲す、
五六一八　小物は小天地を成す、
五六一九　小大は同じく天地を有す、

(PB 392)

五六二〇　小大は　各　方位を具す、
五六二一　衡從横竪の條理は。上下内外の位、
五六二二　東西南北の方、之を四紀と謂う。
五六二三　上下は中外に合す、
五六二四　表裏は内外に合す、
五*六二五　衡從は東西南北に合す。
五六二六　小物は本末内外の位、
五六二七　前後左右の方を資りて爲す、
五*六二八　動植は又た其の中に反す。
五*六二九　動本は上に在り、
五六三〇　植本は下に在り、
五六三一　（編集による空白）
五六三二　外は則ち表皮なり、
五六三三　内は則ち裏肉なり、
五六三四　前後左右を。動は身の面背手足に於て分つ、
五六三五　植は葉の面背中邊に於て見す、
五*六三六　彼此は類を異にするを以て。而して其の氣を異にす。氣の異なるを以て。
五六三七−三八　埋形方位は同じからざるなり。故に日月星辰の其の行を經緯にする、
五*六三九　雲雷水火の其の行を升降する、

(PB 393)

山壑の拗突、
水潮の流遡は、　理に随いて變化す。

五六四〇　天地は已に成器を得。已に其の物を全す。
五六四一−四二　成器は絪縕し。物は其の中に生ず。
五六四三　動植は形を塊歧に於て分つ、
五六四四　理を邪曲に於て爲す、
五六四五　植は地に著きて竪立す、
五六四六　動は地を離れて横行す、
五六四七　動植の竝立は。塊歧に随う。次第に其の文を開く。
五六四八　金石も亦た植なり、　其の形を塊然とす、　而して艸木は則ち歧然として文を開く、
五六四九　介甲は亦た動なり、　其の形を塊然とす、　而して禽獸は則ち歧然として文を開く、　故に
五六五〇−五一　金石は僅に内外有り。未だ本末を得ず。艸木鳥獸にして。漸く本末有り。而して
五六五二−五三　艸木は、　本を下にし末を上にす、
*五六五四−五五　鳥獸は　本を上にし末を下にす、
五六五六　植なる者は質物、養を下より資る、
五六五七　動なる者は天物、養を上より受く、
五六五八　動に首尾と曰う
五六五九　植に根幹と曰う、
五六六〇　首尾根幹。上下は同じからずと雖も。而も
五六六一
五六六二

(I 440b)

五六六三　艸木は、精華を末に發し、
五六六四−六五　鳥獸は　精華上に在れば、則ち終に一本末に歸す。
五六六六　亦た　各　其の分に隨う。　各　其の方位を具す。
五六六七　内外なる者は皮肉の分なり、
五六六八　本末なる者は首尾の位なり、
五六六九　人の前後左右有るは、猶お
五六七〇*　地の東西南北有るがごとし、而して
五六七一　頂の前後より。竝び下りて臆に至るを中界と爲す。
五六七二　人の此の界を有するは、猶お
五六七三　天の中線を有するがごとし、
五六七四　人は地上に在りて。半天地を以て全天地と爲す。
五六七五　圓體を觀て。而して平體と爲す。其の見界に從いて。四方を定む。
五六七六　是れ以て能く見界の條理を正すと雖も。而も直圓の眞を遺す。
五六七七　身に中界有りて左右を分つは、
五六七八　地に中線有りて南北を分つに同じ、
五六七九　南北は則ち同様なり、
五六八〇　彼れ寒ければ則ち此れ熱し、
五六八一　彼れ動けば　則ち此れ止る、
五六八二　左右は則ち同形なり、

(PB 394)

五六八三　左持すれば則ち右轉ず、
五六八四　右行けば　則ち左止まる、
五六八五　南北は迭互の序有り、
五六八六　左右は迭互の用有り、
五六八七*　天行は東より進み、　東に向きて退かず、
五六八八*　人行は前に向いて進み、　後に向いて退く能わず、　是を以て
五六八九　左右は南北に應ず、
五六九〇　前後は東西に應ず、　而して
五六九一　南北は則ち其の用を均しくす、
五六九二　左右は則ち利鈍有る者なり。蓋し
五六九三　我は半天地を以て。全天地と爲す。
五六九四　又た中線を分ちて　各　處を分つ。故に
五六九五　北人は身を西線の北に於て偏にして、　偏北を其の正地と爲す、
五六九六　南人は身を西線の南に於て偏にして、　偏南を其の正地と爲す、　然れば則ち
五六九七−九八　北人左右の利鈍は。南人の反を爲すか。
五六九九　或いは佗に反する者有りて我未だ識らざるか。
五七〇〇　姑く存して他日を待たん。
五七〇一　故に人は方を得て行かざれば則ち躓く、
五七〇二　位を得て立たざれば則ち顛る、

(I 441a)

五七〇三ー〇四　天は則ち方位と立行と一なり、　故に其の位有れば則ち立つ、
五七〇五　　其の方有れば則ち行く、
五七〇六　人は則ち方位と立行と別なり、　故に
五七〇七　能者は其の位を安じ、　其の道に由る、
五七〇八ー〇九　不能者は則ち顛躓に至る、　是を以て人位は則ち安危有り、
五七一〇　　人道は則ち淑慝有り、
五七一一　内に情欲意智を畜うるに由る。是を以て
五七一二　人生は天の自然に及ばず。
五七一三　人情は天則を得て之に法らんと欲す。
*五七一四ー一五　故に以て道を修するなり。若し能く之に法れば。則ち徳を以て其の位に居る、
五七一六　　道を以て其の方に由る、

(PB 395)